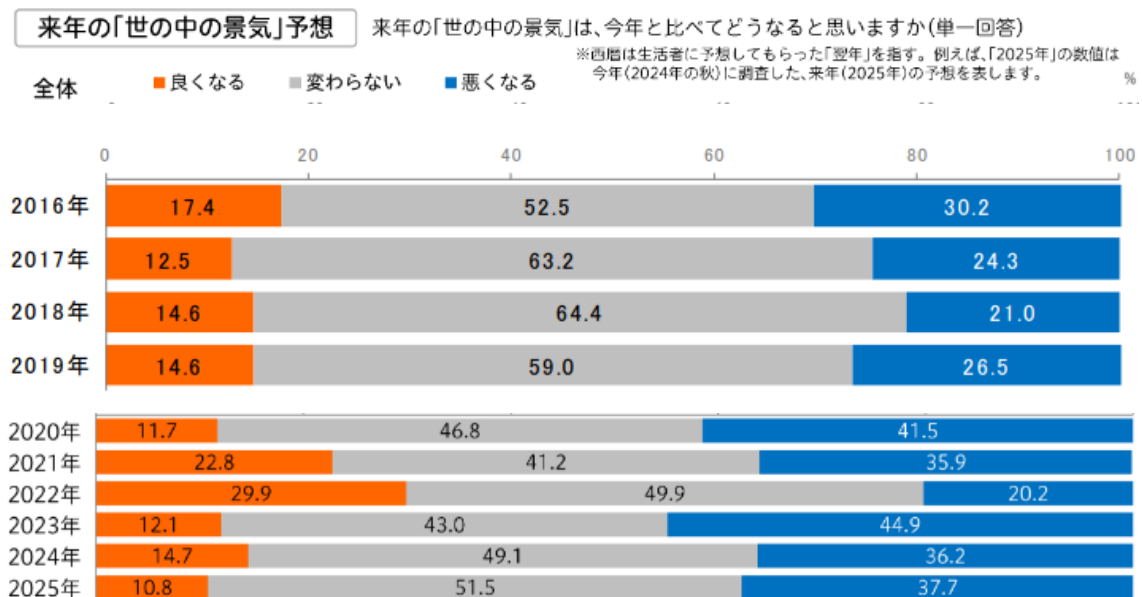


「来年の景気良いとみる人 10.8% 博報堂生活総合研究所調査」

来年の景気が「良くなる」と予想する日本人は 10.8%にとどまることが、博報堂生活総合研究所の調査で明らかになった。10 年前に同じ調査を始めて以来、最も少なく、「悪くなる」と見る人たちは 37.7%とこれまでの調査で 3 番目に多い。「悪くなる」理由として最も多かったのは「物価上昇の継続・加速」に関わる理由で 40.6%。次いで「景気低迷の継続」が 18.2%、「新政権・新政策」が 13.1%となっている。



(博報堂生活総合研究所「生活者にきいた“2025 年生活気分”」調査結果、同「生活者にきいた“2019 年 生活気分”」調査結果をもとに作成)

博報堂生活総合研究所は、秋に翌年の景況感などについて生活者（全国の 20～69 歳男女 3,900 人）に予想してもらった調査を 2015 年から毎年続けている。今年も石破茂内閣が発足した 10 月 1 日から同月 4 日まで、首都圏、阪神、名古屋、札幌、仙台、福岡など全国 11 の地域・都市に住む男性 1,943 人、女性 1,957 人に対しインターネット調査法によって実施した。

2015 年調査開始以来の最小値

11 月 21 日に公表された「生活者にきいた“2025 年生活気分”」調査結果によると、来年の景気予想は「良くなる」が 10.8%で、前年の 14.7%から 3.9 ポイント減少した。2015 年の調査開始以来これまで最も少なかったのは、2019 年秋に実施した調査での「2020 年の見通し」で 11.7%。消費増税や米中関係など国際情勢の不安定化が影響したとみられる。今回の結果は、これをさらに 0.9 ポイント下回っているのが目を引く。

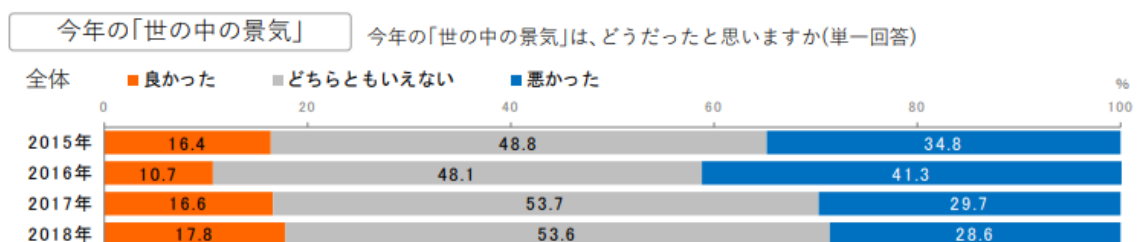
「良くなる」とみる理由として書かれた自由回答を集約すると、最も多かったのは「コロナ禍が収まり、今や良い方向に向かっていると思いたい」や「今がどん底。未来が明るいと思わないと楽しい毎日は過ごせない」など「希望的観測」とみなされる理由の26.5%。次いで「首相交代や米大統領が変わるので景気が良い方向になってほしい」など「新政権・新政策」に関わる理由の15.4%、「コロナ明け以降、抑えられていたものが開放されて、景気もだんだんと動き出すと思う」など「消費・経済活性化」に関わる理由の9.5%と続く。

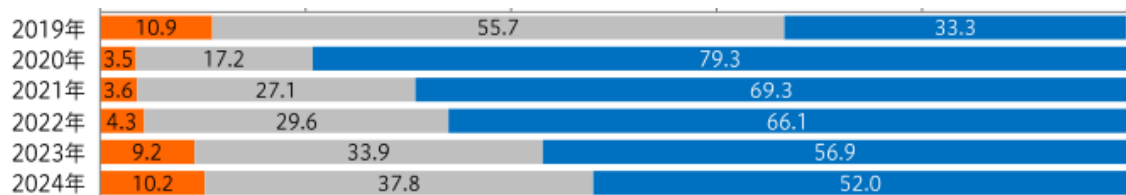
一方、過去3番目に高い37.7%となった「悪くなる」とみる理由として最も多いのは「賃上げは大手だけ。中小企業はなかなか賃上げされない上に物価はどんどん上がるから」や「物価上昇で購買意欲も減少し、出かけることも少なくなっているので」といった「物価上昇の継続・加速」に関わる40.6%。「今のところ景気が回復する要因が見当たらず、むしろ悪くなる傾向が続いているから」や「日本の景気は年々悪くなっているため、これから景気が良くなるような未来が見えない」などの「景気低迷の継続」が18.2%と続く。

「良くなる」とみる理由の2番目に多い「新政権・新政策」が、「悪くなる」理由の3位、に入っているのも目を引く。「首相が変わったことによる転換と変化の波を受けると思うため」や「新内閣の経済対策が楽観視できないから」とみる人が13.1%いる。「新政権・新政策」を「良くなる」理由とみる人の比率（15.4%）と併せ見ると、石破内閣発足をプラスと見る人と不安視する人がほぼ同じくらいいるという結果が見て取れる。

今年の景気実感は改善したが

調査は、「今年の『世の中の景気』実感」についての結果も明らかにしている。今年の景気が「悪かった」と見る人が52.0%と前年の56.9%より4.9ポイント減り、4年連続の減少となった。一方、「良かった」とみる人は「悪かった」とみる人より大幅に少ないものの前年より1ポイントの10.2%と、こちらも4年連続の増加。ただし、2015～2019年の数値（10.7～17.8%）までには回復していない。「今年の景気実感は改善を見せたが、物価上昇の影響などにより来年の景気には生活者も楽観視していないようだ」との見方を博報堂生活総合研究所は示している。





(博報堂生活総合研究所、生活者にきいた“2025 年生活気分” 調査結果、同生活者にきいた“2021 年 生活気分” 調査結果をもとに作成)

支出抑制し貯金の一方旅行も

調査は景気だけでなく「今年お金をかけた」「来年お金をかけたい」ものが何かを調査対象者たちに聞くのも主要な調査項目としている。25 項目の中から複数回答という調査法で答えてもらった結果、「来年お金をかけたいもの」の1位は「旅行」の25.5%。これは「旅行」に「今年お金をかけた」とする答えの23.8%を1.7ポイント上回る。続く2位は「貯金」の19.3%で、「今年お金をかけた」の12.8%から6.5ポイントの増だ。上位15位までをみると、これら二つ以外で「今年お金をかけた」より「来年お金をかけたい」とする答えの方が多かったのは二つだけ。6位の「株など投資」13.6%（「今年お金をかけた」は12.5%）と8位の「老後の暮らしの準備」10.0%（同6.1%）だ。

残り11はすべて「来年お金をかけたい」が「今年お金をかけた」より比率が下がっている。「来年お金をかけたい」3位の「ふだんの食事」19.2%は「ことしお金をかけた」30.4%に比べると大幅減。同じく4位の「外食」18.2%も「ことしお金をかけた」は26.6%だからどちらも今年の実態より来年の希望・意向が低くなっているのが見て取れる。「食など身近な支出を抑えて貯金へ回したいと考える一方で、旅行への意向は高まっており、攻めと守りの両方を意識したお金の使い方が鮮明になってきている」と、博報堂生活総合研究所はみている。

今年お金をかけた & 来年お金をかけたいもの(上位15位)

今年(2024年)、あなたがお金をかけたものはどれですか。
来年(2025年)、お金をかけたいと思うものはどれですか。(ともに複数回答)

※全25項目のうち、上位15位までを2025年意向を基準にランキング



(博報堂生活総合研究所「生活者にきいた“2025年生活気分”」)

日文 小岩井忠道 (科学記者)

関連サイト

[博報堂生活総合研究所、生活者にきいた“2025年生活気分”を発表。](#)

[博報堂生活総合研究所、生活者にきいた“2019年生活気分”を発表。](#)

[博報堂生活総合研究所 生活者にきいた【2016年生活気分】調査報告。](#)

関連記事

2021年11月05日 客观日本 [两大调查显示日本产业界和国民对未来一年经济和就业复苏持悲观态度](#)

2021年07月29日 客观日本 [日本企业平均年薪首次减少，上市企业较上年平均减少1.7%](#)

2020年11月27日 客观日本 [博报堂“生活心情调查”：日本人明年最想在旅行上花钱](#)